

平成28年度札幌医科大学附属病院 女性医師等就労支援事業講演会を開催しました。

「医師が育つ組織とは？グッドキャリア大学をめざして」と題して、平成28年2月27日に札幌医科大学記念ホールにおいて、カレスサポート時計台記念病院女性総合診療センター長及び北海道医師会常任理事の藤井 美穂先生にご講演いただきました。また、講演時には、当大学セミナー初の取り組みとして、北海道医師会のシステムを利用し託児室が併設されました。

講演は1・医師のキャリア、2・医学生・研修医の描く医師像、3・医学教育に求められるもの（卒前教育と卒後教育）、4・社会システムの改革（大学、学会、医師会の取り組み）、5・北海道医師会医師支援の実際の5部構成で行われました。

内容は多岐に渡り、日本におけるキャリア形成・女性医師支援事業の推移や、他大学・他県のキャリア形成モデル、学会の取り組みの紹介にはじまり、全国医学生1309名におけるアンケート、今後のAI導入にむけて医師に必要なものは何かなど、非常に幅広く様々なキャリア支援についてご講演いただきました。北海道における取り組みとして、大学の垣根を越えた医療育成のプログラムや、北海道医師会女性医師等支援事業について復職サポート講習や臨床研修指定病院訪問事業を含め紹介がございました。

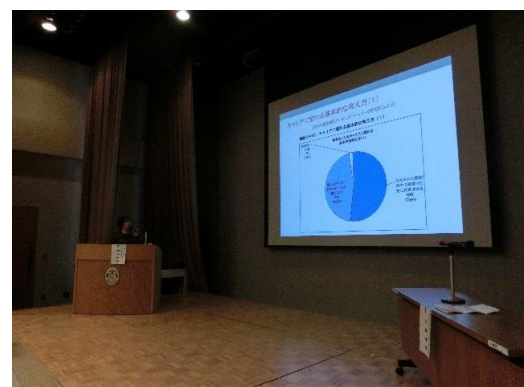
また、病院の管理職に占める女性医師の割合は10.3%（10年前の7.0%より微増）、男性医師の育児休暇取得割合は2.6%と社会一般の調査結果と乖離するものではないものの、他国と比較し低く、今後に向けて働き方の多様性の実現とその評価方法の確立が必要であると結ばれました。

質疑応答では、現在の日本において医師もしくは医学生が出産・育児をいつ行うのが望ましいか、性別を超えた支援とは、イクボスとして重要なことは、女性医師支援が第二の差別を生じさせないためには、などの質問・ご意見がありました。

実際に指導者として臨床・研究・教育に携わっている藤井 美穂先生のお話をうかがうことのできる貴重な会であり、今後の意識改革、キャリアステージ形成において女性医師のみならず男性医師にとっても非常にためになる講演でした。

女性医師等就労支援委員会では、今後もこのような講演会等の開催を進めて参ります。

女性医師等就労支援委員会
副委員長 寺本 瑞絵



託児所を併設しました。
3人のお子さんが利用しました。